



C O N T E N T S

R.W.ラブレス その作品と足跡

The Legend of R.W.LOVELESS

5 New Discovery!

ラブレスナイフ・フォトギャラリー

Masterpieces of R. W. LOVELESS Knives

42 Knife Legend “Bob” Loveless

追悼 “ボブ” ラブレス

73

ラブレス、その人と作品を語る

The Great Footsteps of R. W. LOVELESS in Japan

84

発展を続ける日本のカスタムナイフ

Japanese Custom Knife Makers from JKG Knife Show

35 鍛冶屋フィールドワーク ●かつきせつこ

37 実践的道具考 ●星野欣也

38 大工道具のかたち ●土田昇／●秋山実

54 やっぱり鉄は旨い! ●菊池仁志

56 TAKE FIVE! ●大東正巳

58 第31回JKGナイフショー

60 インフォメーション

62 関市からの情報発信

63 私の愛用するナイフ 特別編 ●尾上卓生

64 USナイフ事情 ●ヒロソガ

66 アメリカ文化とナイフ ●菊月俊之

68 ハンターとハンティングナイフ ●中條高明

70 ハンティング・パーフェクション ●中條高明

88 はたらく刃物 雨城楊枝 ●かくまつとむ／●大橋弘

94 ニュープロダクツ／読者プレゼント

96 バックナンバー





一見テーパーダングに見えるが、ハンドルの外周に合わせニッケルシルバーがはめ込まれている。ハンドルの背にはネームプレートとして真鍮板が埋め込まれている。見た目よりもずっと薄く扱いやすい握り心地が魅力。「各部のサイズやバランスをキッチリと計ってコピーを作っても何故か重くなる。ブレイドのわずかな面の取り方で、柄元が重く感じられるんです。本物に近づくことはできる。でも、超えることはできない。ラブレスナイフは凄いですね (井上さん)」



ヒルト突起部の丸みが素晴らしい！ここに角を付けたらシースが切れてしまう。また、ヒルトのすぐ上であるダングのコバ面も綺麗に丸く仕上げられている。ここが歪んでしまえば駄作に見えてしまう。面を出して四角く仕上げた方がよほど楽。唐突にならず、実用的で手触り良い仕上げ。

ドロップハンター “JKG10周年記念モデル” (リバーサイド)
Drop Hunter “Japan Knife Guild 10th Anniversary Model” (Riverside)
全長208mm、ブレイド長148mm、鋼材ATS-34、ハンドル材スタッグ。(M.A.&K.)
JKG (ジャパン・ナイフ・ギルド) 創設10周年に際し、ラブレスから寄付された10本限定モデル。ドロップハンターだった。



それが分かって、ラブレスナイフ、自体ではなく、当時あったコピー品の多くが良くないのだと気づいた。
なにしろ、当時の日本ナイフ界。それも、とくにナイフショウにはラブレスナイフのコピー作品が8〜9割を占めるといふ状況。それほどまでにラブレスナイフが日本のカスタムナイフ界に大きな影響を与えた。しかし、アウトラインだけを真似たような作品が多く、ラブレスさんのコンセプトから外れてしまった物が氾濫。魅力が完全にばやけてしまった作品が多かったのが寂しかった。
その後も、折あるごとに実物のラブレスナイフに触れるチャンスがあればよく観察したものだった。いつしか写真を撮って記事にしたい。そんな希望が今回、ついに叶った。
しかしながら、残念な事に作者のポップ・ラブレスは、もういない。
「この部分を作るとき、何故このように処理したんですか？」
作品を見るとき、制作者の気持ちや考え無しに、ストーリーは弾まない。
そこで今回は、生前のラブレスと親交が深かった、日本ナイフ界の賢者方にアドバイザーを授かりつつ、ラブレスナイフの魅力を推し量ってみたい。

ドロップハンター (リバーサイド)
Drop Hunter (Riverside)
全長210mm、ブレイド長97mm、鋼材ATS-34、ハンドル材スタッグ。(K)
数あるラブレスナイフの中でも代表的なモデルのひとつ“ドロップポイントハンター”。その中でも使われているスタッグや仕様が特別美しい！と思ったら、なんでもラブレスが奥さんのために作った特別なナイフだそう。フルに形作ったハンドルから、徐々に欠けていったようなスタッグの使い方。スタッグの選び方と使い方、削り方にラブレスナイフの魅力がある。「仕上げの綺麗さとか、エッジの綺麗さとかは他にもいい作品が一杯あるが、自然に手に馴染む感じは他にないですね (井上さん)」

Riverside



上は、長い間、ポーチになるレザーのカッターとして活躍していた、スペシャルナイフ。下はドロップポイント・ハンターの握り心地やバランスを試すために作られた、マイカルタモックアップ。

Riverside Big Bear

ビッグベアー

1980年代後半に作られたビッグベアーがこれだ。サブヒルトはヒルトから離れすぎており、ブラクティカルではない。握り心地自体もなんだが「すうすう」して心許ない感じがする。



1980年代前半に作られたビッグベアーのブランクがこれだ。グラインディングのあとに強度チェックをした際、削り込みすぎてエッジが脆くなってしまう、「悪い見本」として、長くショップの壁にぶら下げてあったモノ。この後、グラインディングホイールの径を6インチから8インチに変えて改良した。



Riverside Big Bear

ビッグベアー

サブヒルトが、ぐっとヒルト寄りに改良され、ヒドゥンボルトが使われた最新のビッグベアーがこれだ。ハンドルの握りやすさが向上している。ポブいわく「これで引き抜く際の安定度が改善されたらう」なのだそう。

Riverside



ラブレス工房半景。奥がグラインディングルーム、これより手前にはポブのオフィスとレザールームがある。一番奥に見える黒点がポブのターゲットだ。オフィスからにゅっと出てきて「Bang!!」とやる。



2010年4月頃に、ほぼ完成していた出来立てのナイフ達。コレクターの要望が多いファイターが沢山見られる。

Riverside リバーサイド期 1974年以降

1974年、より大きなスペースを確保する必要に迫られたこともあり、工房をリバーサイド市に移転する。勿論ナイフロゴも「Riverside, Calif.」に変更された。1975年には、ステイヴ・ジョンソンとのダブルネームナイフを発表するなど、話題には事欠かない状態が続く。この時点で、ラブレスナイフのウェイトイングリストは、約5年。作れば作っただけ売れる、という状況であった。このリバーサイド期を一言で言い表すなら、発展と円熟の時代、ということになるだろう。新しいモデルが沢山発表されることもなかったが、それぞれのモデルは年々リファインされ、工作精度や仕上

げが飛躍的にインブルーヴ(改善)されていったのである。ステイヴ・ジョンソンは、大きなモーターサイクル事故にあっってしまったが、パートナーの座を去ってしまったが、その後も大抵は弟子、もしくはパートナーと呼ばれる人が出入りして、ポブのヘルプをしている。この間、ラブレスナイフの名前は確固としたものになり、オーダーのバックログは増える一方でもあった。ポブに日本とのつながりが出来たのは、この1970年代後半のことです。すでに驚異的な人気を呼ぶことになっていく。1980年には、日本のカスタムナイフ界進展の為に、「ジャパンナイフメィカース・ギルド」を発足させ、初代会長に就任する。

生前のポブが力説していたことがある。それは日本のカスタマーの「モノを見極める能力」は、世界でも有数だ、というのである。「ワシは長い間日本のカスタマーと付き合ってきたからな。よく解るんだ。例えば、ほんの少しだけ、デザインをインブルーヴしたとする。すぐに反応してくるのはやはり日本のカスタマーだったな。それだけモノを見る眼が鋭いということにもなる。そんな日本でワシのナイフが注目されたというのは、嬉しかったよ」

でかい穴は明らかに45オートだ。後ろには穴だらけのダンボールが積み重ねてある。小さい穴は、22口径とリカーシェイク(飛び散った弾頭の破片)であろう。



そして1981年、ポブにとっては大きな環境の変化を迎える年となった。ナイフメィカー、ジム・メリットがパートナーとして参加することになったのだ。ジムがラブレス工房に入った時点で、ポブのバックログは、なんと15年に達していたのだそう。当然新しいオーダーは受けていなかったが、やっとなら順番が回ってきたカスタマーに電話を入れると、もう本人は亡くなっていたり、引越していたり、「結構な苦労だったよ」とジムが当時を振り返っている。当初、2ヶ月も持たないだろうといわれていたジムのパートナーシップだが、意外なことにその後30年近くになるほどの付き合いとなる。

このリバーサイド期の特徴のひとつとして、バイヤーであるコレクターの要求が、アートナイフ寄りになっていったというのがある。カスタムナイフの中でも高価なラブレスナイフを使い倒せる人はそうそう居ない。ポブが好むと好まざるにかかわらず、豪華なイングレイヴやインレイ、もしくはプレゼンテーションモデルに人気が集まっていく傾向があった。

しかし、ポブには「ナイフは、あくまでも道具である」という矜持があった。ラブレスカスタムは、どんなナイフであれ「切れる。そこらのナイフよりも格段に使い易く、刃持ちも良い」という基本コンセプトは厳然としていたのだ。デザインに走ることもなく、ラブレス工

NEXT
ナイフマガジン 2011年4月号は
 2011年2月28日発売です

ナイフマガジン
KNIFE

2011. February No.146
 発行人 今井今朝春
 編集人 稲葉 博昭
 発行所 株式会社ワールドフォトプレス
 〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2
 ☎03-5385-8111 (代表)
 ☎03-5385-5648 (編集部直通)
 印刷所 大日本印刷株式会社
 有限会社ベイス/株式会社三協美術
 発行 2011年2月号 第26巻 第1号
 (通巻148号)
 定価 1050円 (本体価格1000円)
 (送料290円)
 ©WORLD PHOTO PRESS 2011
 本誌掲載の写真、イラストおよび記事の無断転載を禁じます。

ワールドフォトプレス ホームページ
<http://www.monomagazine.com>

BACK NUMBER

バックナンバー購入方法

バックナンバーのご注文は、最寄りの書店にお申し込みください。郵送を希望される方は代金と送料を郵便為替にてお申し込みください。郵便局に備え付けの払い込み票に口座番号00190-7-582639、加入者名(株)ワールドフォトプレスを記入し、通信欄にバックナンバーの誌名、月号、冊数をお忘れなく明記してください。ナイフマガジンの送料は1冊290円、2冊以上は販売部に直接お電話でお問い合わせください。お急ぎの場合は宅急便の代金引換をご利用できます。

お申し込みにはインターネット<http://www.monomagazine.com/>もご利用できます。なお、2007年6月号までは売り切れです。何とぞご了承ください。

☎164-8551
 東京都中野区中野3-39-2
 ワールドフォトプレス販売部
 ☎03-5385-5701



2009年2月号 定価1050円
 ●カスタムメイカー 川村龍市●リック・ヒンダラー●JKGナイフショー●肥後守●アトランタ・ブレイドショー●刃物の研ぎとメンテナンス●福田正孝&島田英承合作ナイフ●はたらく刃物 鋳鉄、他



2009年4月号 定価1050円
 ●肥後守大全(加藤清志他作のカスタム肥後守/肥後守の選び方/肥後守を使う小学校/メイキング)●銃籠シースを作る●KNIFE Impression スパイダルコ●ZTナイフズ●カスタムメイカー 坂内好夫、他



2009年6月号 定価1050円
 ●小田久山、その半生と作品●カスタム・ストライダー●カスタムメイカー 橋本庄市●現代の鍛造ナイフ●Impression ガーバー●銃刀法改正について(告知)●はたらく刃物 横曲がり竹細工、他



2009年8月号 定価1050円
 ●カスタムメイカー 二部幸夫●2009年度版 鉞大全●デント親子のラフレス・ハンター●クロシヨウ●Impression MOKIクロノス&アマランス●倉本俊文●鍛造刃物の世界●はたらく刃物 挽き物、他



2009年10月号 定価1050円
 ●SPYDERCOの魅力●アトランタ・ブレイドショウ2009●ウィリアムW. スケイゲル●カスタムメイカー 田邊一寿●Impression SOG●クザン・ブレイドショー●はたらく刃物 特別編 当世指先事情、他



2009年12月号 定価1050円
 ●カスタムメイカー 松田菊男●スケイゲル・コレクション2●SPYDERCOの魅力 Part2●銀座ナイフショー●千代鶴是秀と過去の名工たち●Impression MCUSTA●日本鍛冶紀行 関東牛刀、他



2010年2月号 定価1050円
 ●2010年度版 研ぎ大全●知られざる小刀の魅力●カスタムメイカー 山本徹●チャールズ・ワイズ●JKGナイフショー●TAKE FIVE! シベリアナイフ●はたらく刃物 特別編 蝶番中の先駆け、他



2010年4月号 定価1050円
 ●2010年度版 包丁大全●カスタムメイカー 武藤美哉●福田正孝&島田英承作「Eagle Wing」●オリジナルシースを作ってみよう●伊原賢治●東京鍛冶 板金鉞●日本鍛冶紀行 広瀬重光金物店、他



2010年6月号 定価1050円
 ●根本朋之●エレノ・ハリス●安永朋弘●JKG鍛造ナイフ部会●東京フォールディングナイフショー●マール [セーフティ・ハンティング・ナイフ]●東京鍛冶 包丁●はたらく刃物 井川メンバ、他



2010年8月号 定価1050円
 ●浜田智成●ジェフ・ホール●今映治郎●JCKMカスタムナイフショー●ソルバンゴ・ナイフショウ●リック・ヒンダラー●土田昇×甲野善紀対談●東京鍛冶 諸道具●日本鍛冶紀行 片桐鍛冶/深溝砥石、他



2010年10月号 定価1050円
 ●福田正孝●平山晴美 新作ナイフ●ビル・ルーブル●黒澤次夫●レスキューナイフカタログ●銀座ナイフショー●ナイフアート・ドット・コム●東京鍛冶 丸蔵ち包丁●日本鍛冶紀行 深澤やすり店、他



2010年12月号 定価1050円
 ●追伸R.W.ラフレス●2010ブレイドショウ●日野洋司●KNIFE IMPRESSION安永朋弘●奈良定守●レミントン・ホーイスカウトナイフ●POHL FORCE●東京鍛冶 花鉞●はたらく刃物 笹野一乃彫、他

FROM EDITORS [編集後記]

●ラフレスのナイフを見ると解かりやすいが、作品が古くなるにつれ値段が上がって行く。単純に希少と言うのもあるが、こう改めて見ると確かにオールドの方が魅力的だ。それは個人的なものだろうか？ 実際、ナイフ全体の仕上がりで言えば新しい作品の方が各種データが盛り込まれ、かつ新しい機械・工具が使われているわけで、使用に関しては段違いで良い。では、使用感とルックスは別物か？ 答えは、別物である。ハンターの中條さんが「実猟で役に立つのは実際、地味なナイフ。でも、出来るだけ格好良いナイフで捌きたい。だから延々と究極のナイフを探し求めるのさ」との言葉があった。実用とルックスの最大公約数を求め、ナイフファンの旅はまだ続くのだろう。(稲葉)

●今回おまほ丸ごとR.W.ラフレスで埋め尽くした一冊となりました。取材は、伝説の作品と足跡を、解きほぐしていくような作業となりました。ラフレスの作品をここまで眺め、手に取ったことはこれまでありませんでしたし、どこが優れているのかじっくりと何う機会も実はなかったことに気付かされました。手にすっと吸い付くような独特のタッチは、ブラインドでもそれと分かるほど、特徴的でしたし、故人をよく知る人たちの「エピソード」を語る時の楽しそうな表情と、一抹の寂しさも印象的でした。快く取材に応じていただいた方々に御礼を。保存版です。(編集部)

ナイフマガジン定期購読のご案内

毎号、送料無料で確実にお届けします！

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方は、便利な定期購読をご利用ください。

■購読料金
 1年間 (6冊) **6,300** 円(税込)

■新規定期購読のお申込方法

- ①お電話で (新規申込み専用ダイヤル)
 フリーダイヤル 富士山 富士山
 ☎0120-223-223 (年中無休24時間営業)
- ②PC サイトから
<http://fujisan.co.jp/knife-magazine>
- ③携帯電話から
<http://223223.jp/m/knife-magazine>
- ④QRコードから
 上記QRコードからアクセスしてください。

■お問合わせ
 雑誌のオンライン書店 / \Fujisan.co.jp
 カスタマーサポート
 PC : <http://fujisan.co.jp/cs> または
 MAIL : cs@fujisan.co.jp にお問合せください。

■注意事項

- お申込みは\Fujisan.co.jpとご契約となり記載の利用規約に準じます。
- お支払いのタイミングによってはご希望の開始号が後ろにずれ場合があります。
- お届けは発売日前後の到着を予定しておりますが、配送事情により遅れる場合がございます。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承ください。